

平成 17 年 1 月 14 日

各 位

会 社 名 マルカキカイ株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 釜江 信次  
(コ - ド 番 号 7594 大証 二 部)  
問 合 せ 先 常務取締役管理本部長 森 康明  
(TEL 072-625-6551)

### 中期経営計画進捗状況(連結)

当社は 2003 年 12 月から中期経営計画に取り組んでおります。中期基本戦略の内容と 2004 年 11 月期の進捗状況は以下の通りであります。

#### 記

初年度の 2004 年 11 月期は工作機械業界を始めとして増産・買換え需要が予想を上回って推移した他、当社のアジア重視の戦略が功を奏したことなどにより、年初の経営計画の連結売上高、利益を大幅に上回ることができました。これに伴い最終年度の 2006 年 11 月期の利益目標を下記のとおり、上方修正することと致しました。

#### 1. 中期基本戦略

##### アジア取引の拡大

アジア市場を重点市場の一つと捉え、中国の 3 拠点を初めとした取引拡大を図る。

アメリカ市場における既存商品のシェアアップ、新規商品の投入と日系企業の開拓  
建設機械部門において国内販売、輸出、レンタルの連携強化による独自性を発揮した営業  
の展開

国内と海外拠点相互の情報の飛躍的な増加

#### 2. 「事業別・市場別戦略と施策」および「初年度の施策の実績」

##### 1) 産業機械部門

初年度実績：売上高伸び 22.1%増

営業利益伸び 23.7%増

##### 日本市場

##### 主要商品の販売拡大

- ・工作機械・射出成形機等拡大しました。鍛圧機械の販売拡大にも注力しております。

##### ユーザー数の拡大

- ・自動車関連企業などの海外進出企業を主体に新規ユーザーの開拓が図られております。

##### 海外メーカーとの取り組み強化

- ・台湾メーカーの商品を推進中ではありますが、日本市場への売込は今後の課題です。

子会社ソノルカエンジニアリング株の2006年11月期売上高23億円達成のためのユーザー基盤構築の完全実現を図る。

- ・ 初年度は17億円の売上計画に対して、受注が今期に繰延になる等の要因により13億円(昨年度15億円)にとどまりましたが、新機種での大口受注があり、今期以降の足掛かりが出来る見込みです。

首都圏市場を重点的に拡大する。

- ・ 産業機械部門の首都圏の売上高は前年比39%増となり、首都圏の比率が前年の20%から21%に上昇しました。

#### アメリカ市場

主力商品の販売をセールス、サービス体制の強化により増加させ、売上を3年間で32%伸ばす。

- ・ 工作機械は前年を22%上回りましたが、射出成形機は前年を下回りました。

新主力商品を育成する。

- ・ 新商品として採り上げたMM会メーカーの商品であるパイプベンダーの売上が展示会を開催するなどの販売体制作りを進めた結果、約2億円の売上を計上しました。

日系企業の開拓。

- ・ 日本駐在員を1名増員し、日系自動車関連企業を中心に約10社開拓しました。

#### アジア市場

東南アジアはタイ、インドネシアのビッグマーケットの営業を本社からの支援体制を強化してユーザーの拡大を図る。

- ・ 日系企業を中心に新規ユーザーの拡大が図られております。

中国の営業強化により、2006年11月期中国市場の売上高25億円を達成する。

- ・ 上海・天津の本格的な営業活動は3月からでありましたが、今期は約15億円(ユーザーが日本で購入し中国に輸出した金額を含む)の実績が挙げられ、計画を上回って順調な出足となりました。

## 2) 建設機械部門

初年度実績：売上高伸び 21.0%増

営業利益伸び 87.2%増

中古建機輸出の拡大

- ・ 2004年11月期実績は前年比96%増の約6億円となり、順調に拡大しております。

レンタル部門の強化

- ・ 新たに連結子会社となったジャパンレンタル株の収益が好調でありました。

主力メーカー・コベルコ製品をメインとし、その他の有力商品をサブとする販売体制を構築する。

- ・ コベルコ以外のメーカーの選定を終え、下期から販売を開始し、新工法の基礎機械の販売で実績が挙げられました。

コベルコ製品を軸に環境関連商品の取り組みを開始いたします。

- ・ 下期にプラスチックのリサイクル商品を数台販売し緒に就いたところです。

3 . 中期経営計画連結数値目標

(金額単位：百万円)

決 算	2003年11月 期 実 績	2004年11月 期 実 績	2005年11月 期 計 画	2006年11月 期 計 画
売 上 高	26,145	31,764	33,500	35,500
営 業 利 益	585	1,048	1,250	1,312
経 常 利 益	590	1,100	1,300	1,364
当 期 純 利 益	353	568	700	750
R O A ( % )	2.9	5.2	5.0	5.0

(部門別営業利益と決算上の営業利益との差異は主に親会社管理部門に係る経費分)

(金額単位：百万円)

部 門 別	2003年11月 期 実 績	2004年11月 期 実 績	2005年11月 期 計 画	2006年11月 期 計 画
産業機械売上	21,446	26,179	27,923	29,064
同 営業利益	1,256	1,554	1,754	1,806
建設機械売上	4,588	5,552	5,544	6,400
同 営業利益	178	333	379	390
その他売上	110	33	33	36

(参考)中期計画スタート時点(2003年12月)の連結数値目標(金額単位：百万円)

決 算	2003年11月期	2004年11月期	2005年11月期	2006年11月期
売上高	26,145	29,000	32,000	36,000
営業利益	585	810	1,000	1,200
経常利益	590	850	1,050	1,250
当期純利益	353	470	560	650

部 門 別	2003年11月期	2004年11月期	2005年11月期	2006年11月期
産業機械売上	21,446	23,970	26,667	30,464
同営業利益	1,256	1,390	1,605	1,820
建設機械売上	4,588	5,000	5,300	5,500
同営業利益	178	220	230	250

以上

#### 《当資料取扱上のご注意》

当資料に記載されている当社及び当社グループの計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の実績等に関する見通しです。これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の経営陣の判断に基づくものであり、経営環境の変動等のリスクや不確定な要因を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、これら見通しと大きく異なる結果となることあり得ることをご承知おき下さい。